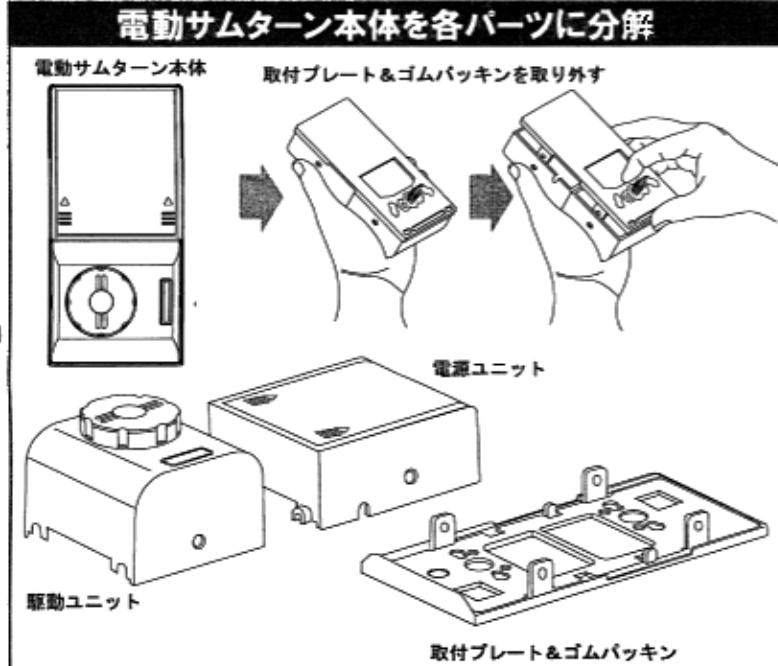
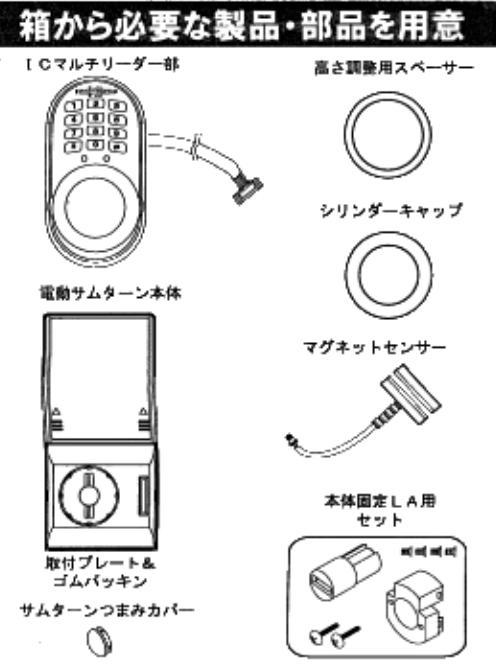


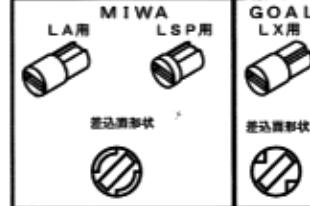
作業上の注意

- 作業中ドアが閉まらないようにドアストップバーや障害物などで必ず固定して下さい。
- 電動ドライバー等は、ネジの締めすぎやネジ山をつぶす原因になりますので使用しないでください。
- ネジや小さな部品を無くさないよう、回りを整理整頓した上で作業を始めてください。
- 取付マニュアル及び、取扱説明書をよく読んでから作業を始めてください。
- 取り外したサムターンは現状復帰や緊急対応するときに必要です。
無くさないよう大切に保管してください。
- 取付の前に現在の鍵状態を確認してください。デットボルトがストライクに接触したり、錆びたり汚れで重い場合や、ドアが閉まったときリバウンドする場合などは、必ずメンテナンスしてください。

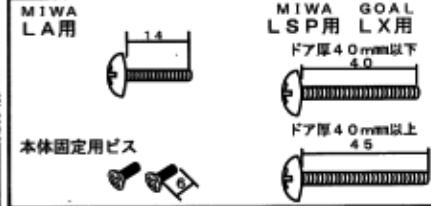
取付準備



連結シャフトの見分け方



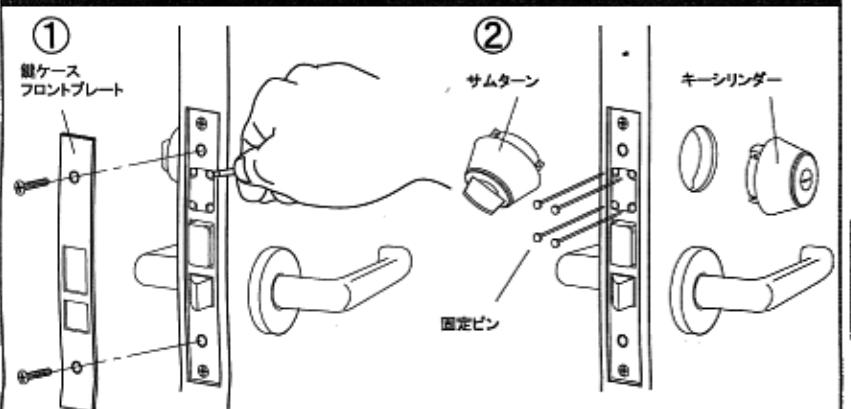
ビス類の見分け方



ICマルチリーダーのドアへの取付

注意！：キーシリンダーの下穴は鋭いエッジの状態となっています。ヤスリで十分エッジを取り、ケーブルを痛めなうようにしてください。

シリンダーとサムターンを外す



①ドア側面にある鍵ケースフロントプレートのネジをプラスドライバーで外します。
②マイナスドライバー(精密ドライバーを推奨)で4本の固定ピンを外して、サムターンとキーシリンダーを外します。

注意！：固定ピンを抜くときは、キーシリンダーやサムターンを必ず手で押さえて下さい。
落として足を怪す可能性があります。

ICマルチリーダーのケーブルを通す



③ドアハンドルを外して、鍵ケースの固定ネジを外し、鍵ケースを引き出します。但し、キーシリンダーを取り外した穴にケーブルを通せる隙間があれば、鍵ケースを外す必要はありません。

※ドアハンドルの取り外し方が不明の場合は、ハンドルメーカーにお尋ね下さい。

④ICマルチリーダー部のケーブルをキーシリンダーの穴から通してサムターン側の穴へ貫通させ

鍵ケースとハンドルを元に戻します。ケーブルは出来る限り鍵ケースの上部を通ります。

※ケーブル保護のため、キーとサムターン穴上部の内から外に養生テープやビニールテープを貼ってください。

固定する



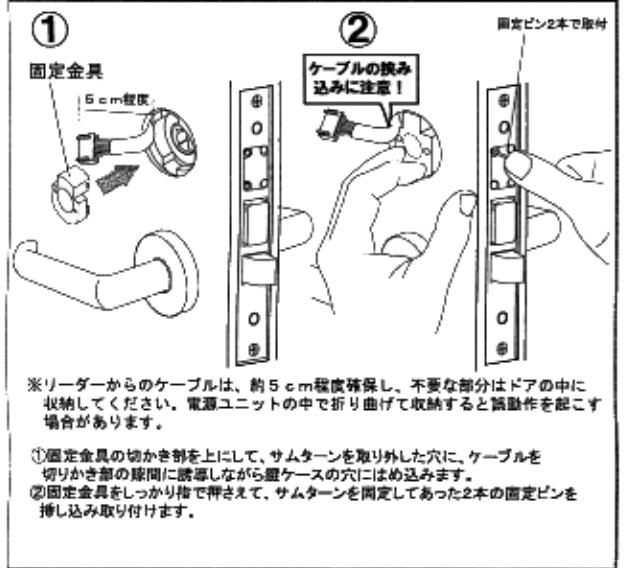
⑤ドアとキーシリンダーの隙間にあわせたスペーサーの枚数とキーシリンダーをICマルチリーダー部の中に入れます。

⑥キーシリンダーを組み込んだICマルチリーダー部を鍵ケースの穴にはめ込み、2本の固定ピンで取り付けます。

電動サムターン本体の取付

注意！：ケーブルは慎重に取り扱いください。傷つけたり、鋭角に折り曲げたり、挟んでつぶしたりすると、電圧異常や漏電により、誤動作、登録、認証エラーなど正しく作動しない場合があります。

固定金具の取付

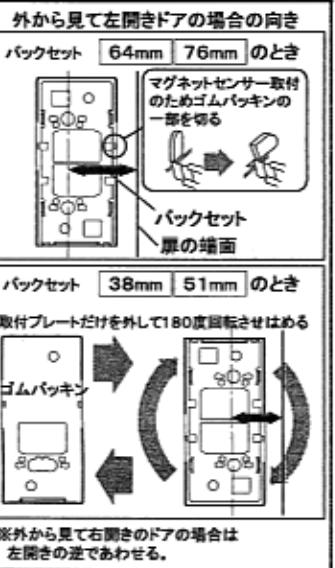


※リーダーからのケーブルは、約5cm程度確保し、不要な部分はドアの中に収納してください。電源ユニットの中で折り曲げて収納すると誤動作を起こす場合があります。

①固定金具の切き部を上にして、サムターンを取り外した穴に、ケーブルを切りかけ部の隙間に挟みながら鍵ケースの穴にはめ込みます。

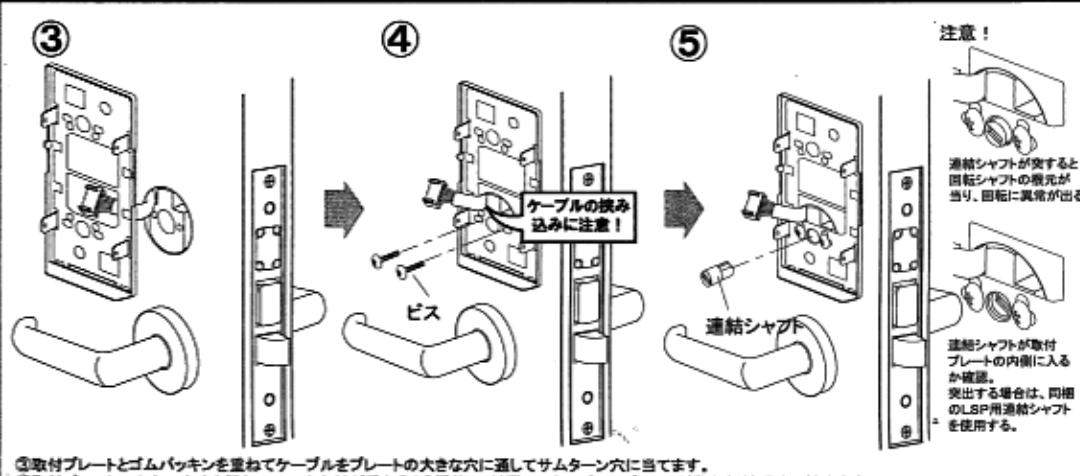
②固定金具をしっかりと押さえ、サムターンを固定してあった2本の固定ピンを押し込み取り付けます。

取付プレートの調整



※外から見て右開きのドアの場合は左開きの逆であわせる。

取付プレートの取付



③取付プレートとゴムパッキンを重ねてケーブルをプレートの大きな穴に通してサムターン穴に当てる。

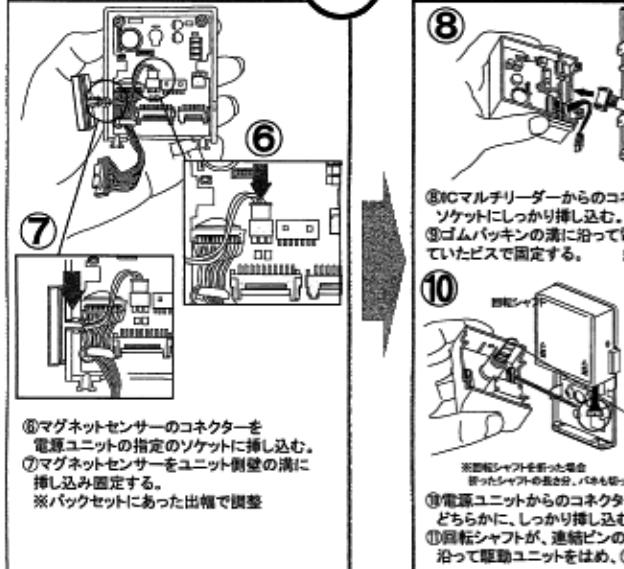
④取付プレートの中心丸穴と鍵ケースの中心軸が重なるよう調整し、付属の2本のビスでプレートが動かなくなるまで締めます。

注意！表面のICマルチリーダーが動かなくなる程度で十分です。あまり強く締めるとドア板が変形することがあります。

⑤連結シャフトを固定プレートの中心穴に差込み、連結シャフトの切き部と鍵ケースの切き部がかみ合うまで押し込みます。

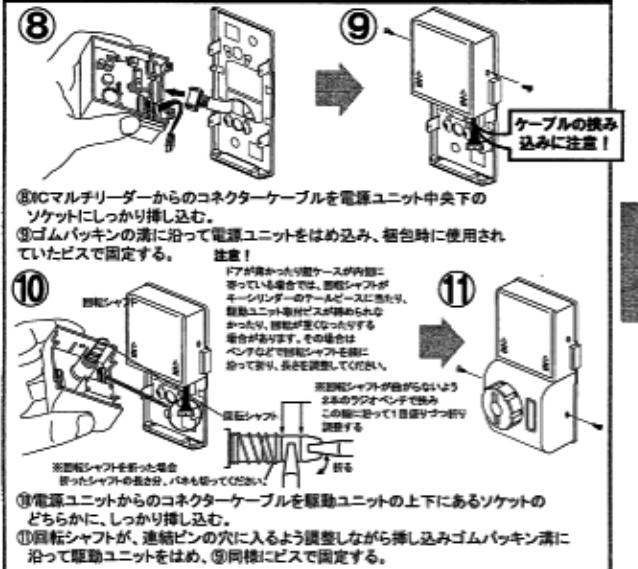
注意！連結シャフトが取付プレートより突出する場合は、同梱のLSP用連結シャフトをご使用ください。

センサーの固定 重要！



⑥マグネットセンサーのコネクターを電源ユニットの指定のソケットに挿し込む。
⑦マグネットセンサーをユニット側面の溝に挿し込み固定する。
※パッケージにあった出幅で調整

電源ユニット・駆動ユニットの取付



⑧ICマルチリーダーからのコネクターケーブルを電源ユニット中央下のソケットにしっかりと挿し込む。
⑨ゴムパッキンの溝に沿って電源ユニットをはめ込み、括弧時に使用されていたビスで固定する。
注意！
ドアが開かない場合は、面接シャフトが内側に突いている場合は、面接シャフトとキーシリンダーのナット側に逆向き、面接シャフト側にビスを締められたままでは、ドアが開かないことがあります。その場合は、ペグの方向で面接シャフト側に沿って取り、長さを調整してください。

⑩電源ユニットからのコネクターケーブルを駆動ユニットの上下にあるソケットのどちらかに、しっかりと挿し込む。
⑪回転シャフトが、連結ビンの穴に入れるよう調整しながら挿し込みゴムパッキン溝に沿って駆動ユニットをはめ、⑫同様ビスで固定する。

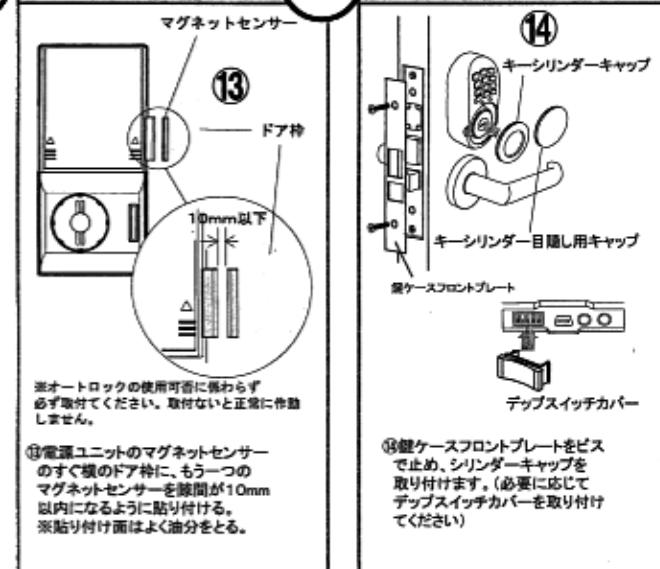
ドア開き方向の設定 重要！



⑫ドアの側面から見てキーシリンダーが左右どちらについているかでディップスイッチを変更する。
左側にキーシリンダーがある…①に設定する
右側にキーシリンダーがある…②に設定する

※設定後は、Open/Closedボタンを2回押すリセットしてから電池を投入してください。

ドア枠センサー取付 重要！

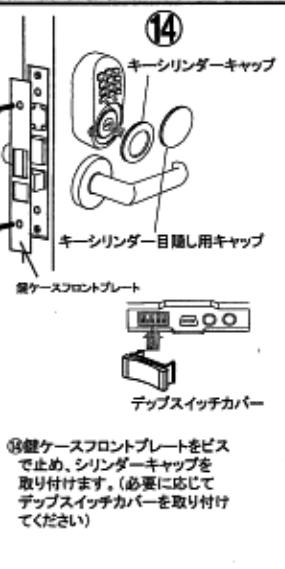


※オートロックの使用可否に係わらず必ず取付してください。取付ないと正常に作動しません。

※電源ユニットのマグネットセンサーのすぐ隣のドア枠に、もう一つのマグネットセンサーを隙間が10mm以内になるように貼り付ける。

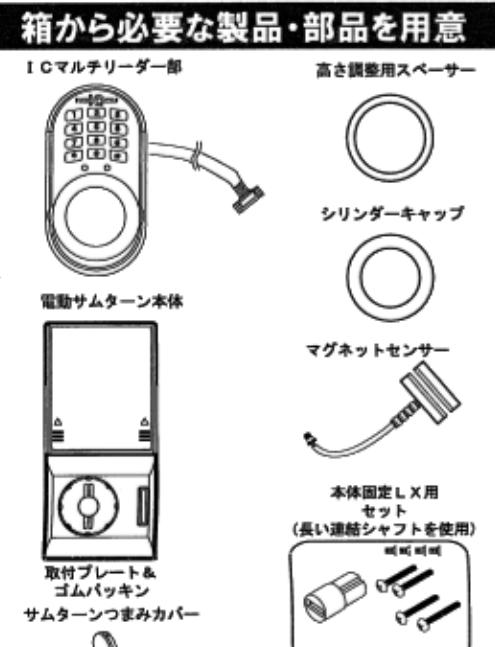
※貼り付け面はよく油分をとる。

キャップの取付



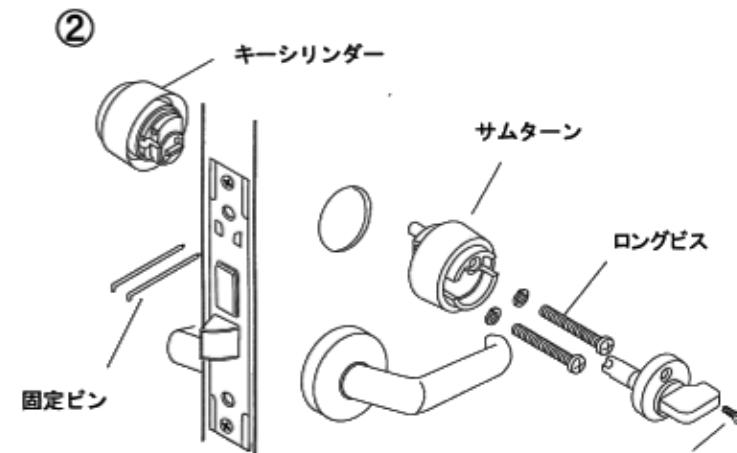
⑯鍵ケースフロントプレートをビスで止め、シリンダーキャップを取り付けます。(必要に応じてディップスイッチカバーを取り付けください)

取付準備

以降の取付準備は
MIWA LA
タイプを参照

ICマルチリーダーのドアへの取付

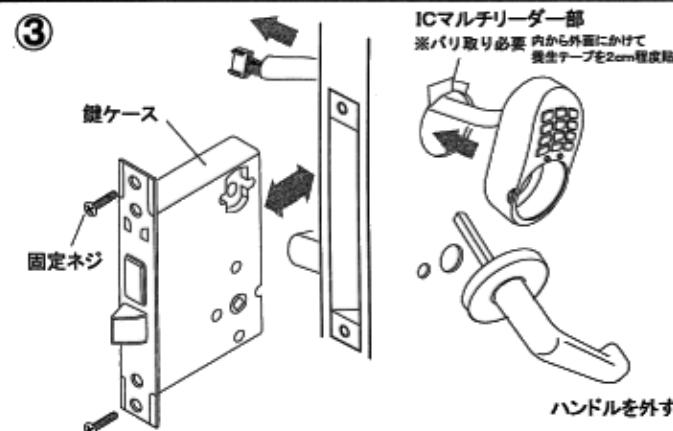
キーシリンダーとサムターンを外す



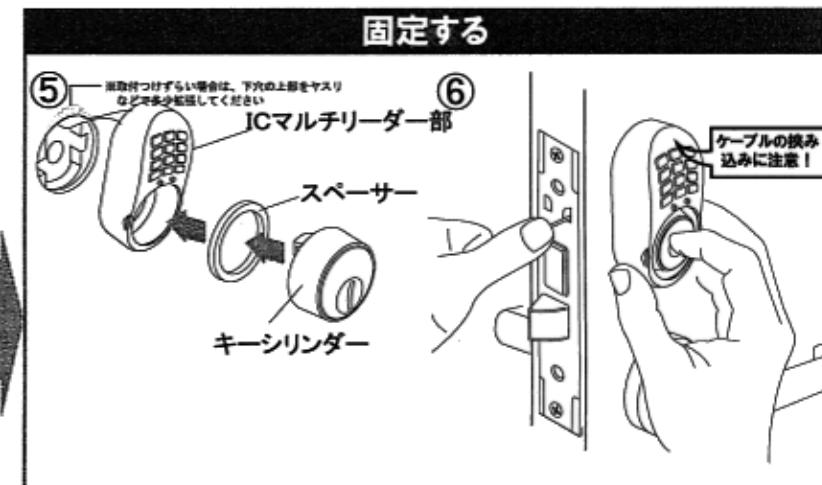
①ドア側面にある鍵ケースフロントプレートのネジをプラスドライバーで外します。
②マイナスドライバー(精密ドライバーを推奨)で2本の固定ピンを外して、サムターンのつまみ上部にあるビスを外します。キーシリンダーとをつなぐロングビスを外すとキーシリンダーとサムターンが外れます。

注意! ロングビスを外すときは、キーシリンダーやサムターンを必ず手で押させて下さい。
落下して足を怪我する可能性があります。

ICマルチリーダーのケーブルを通す

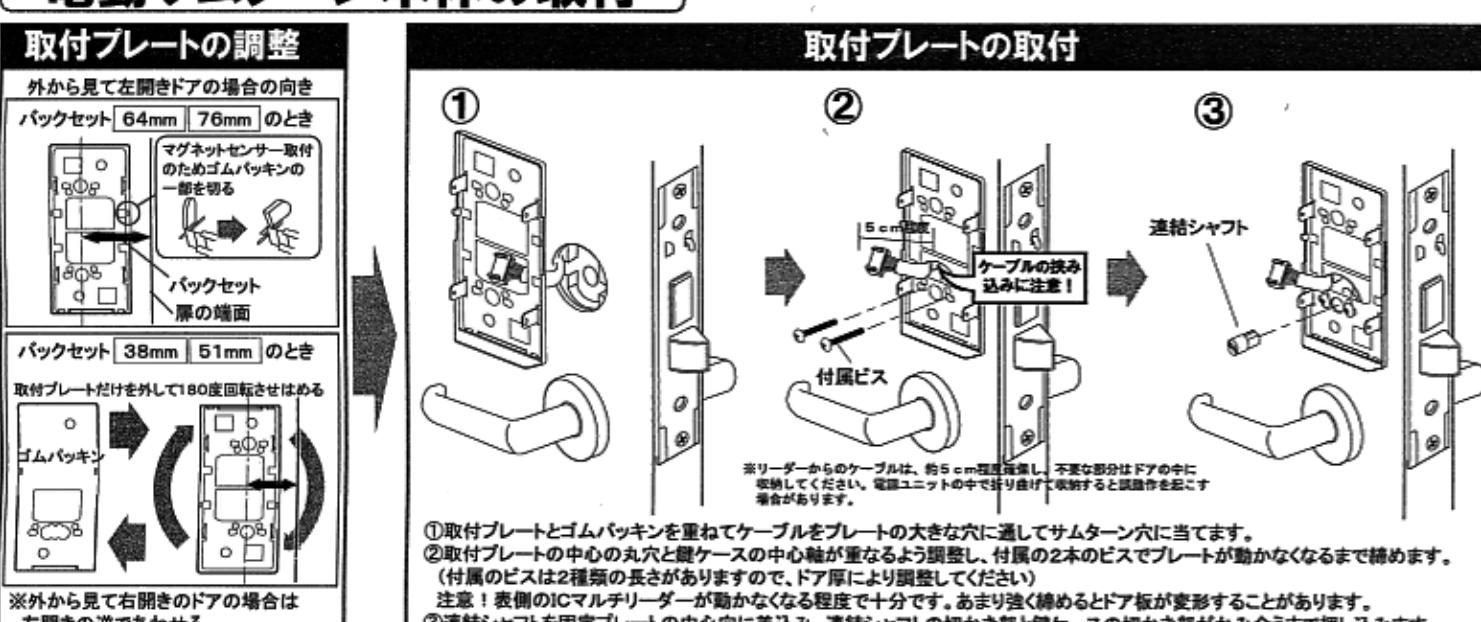
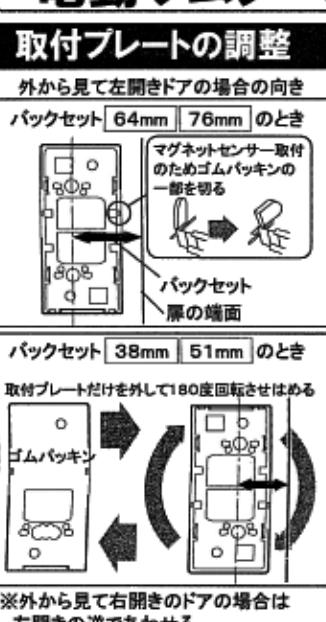


③ドアハンドルを外して、鍵ケースの固定ネジを外し、鍵ケースを引き出します。但し、キーシリンダーを取り外した穴にケーブルを通せる隙間があれば、
鍵ケースを外す必要はありません。
※ドアハンドルの取り外し方が不明な場合は、ハンドルメーカーにお尋ね下さい。
④ICマルチリーダー部のケーブルをキーシリンダーの穴から通してサムターン側の穴へ貫通させ鍵ケースとハンドルを元に戻します。
※ケーブル保護のため キーとサムターン穴上部の内から外に養生テープやビニールテープを貼ってください。ケーブルは出来る限り鍵ケースの上部を通します。



⑤ドア厚にあわせたスペーサーの枚数とキーシリンダーを
ICマルチリーダー部の中に入れます。
⑥キーシリンダーを組み込んだICマルチリーダー部を
鍵ケースの穴にはめ込み、固定ピンで取り付けます。

電動サムターン本体の取付

以降の手順は
MIWA LA
タイプを参照

Management Lock

取付後の動作について

MIWA
GOAL 共通

重要!

●電池セットしてからの初期動作について

テンキーの※キーを押すだけで作動します。

- IC登録をするまでは、オートロックによる締め出しを防止するプログラムが働きます。
その為、ICマルチリーダーの※キーを押すだけで施錠動作をしますが、異常ではありません。
IC登録後は、通常機能のプログラムが自動的に立ち上がります。

●カード登録前に不正動作が起きた場合

- カードを登録する前に施錠状態でマグネットセンサーを剥がしたり落としたりすると警報音があります。その場合、本体を出荷前の状態に戻さないかぎり止めることはできません。本体の取付が完了したら、速やかにカード登録を実施してください。

※出荷前の状態に戻すときは、販売代理店や設置業者にお問い合わせください。
販売代理店様へ
出荷前の状態に戻す（オールリセット）の手順は、当社HPの代理店サイトに掲載しておりますので、その手順に従ってください。

●開錠・施錠動作がスムーズでない場合

- 取付後、サムターンつまみや、Open/Closeボタン、ICでの開錠施錠動作を行ったときに、スムーズな開閉動作が行われなかつ場合は、回転シャフトがキーシリンダーの一部に接触していることがあります。
その場合は、駆動ユニットを取り外して、回転シャフトの5mm間隔で刻まれている線に合わせて折り、短くしてから再度取り付けを行ってください。
- 铸造品の連絡シャフトの角穴には、まれにバリが発生することがあります。連絡シャフトのバリや回転シャフトのエッヂをヤスリなどで処理してから、再度取付を行ってください。

●マグネットセンサーを付けなかった場合

- マグネットセンサーを本体取り付けなかったり、忘れたりした場合は正しく動作しません。必ずマグネットセンサーを装着してください。

●マルチリーダーが反応しない場合

- ICマルチリーダーに触れても反応しない場合は、配線ケーブルがキーシリンダーに挟まれたり、折れ曲がっている場合があります。コネクターの勘合を確認の上再度取り付けを行ってください。